

# 雅楽だより

## 《目次》

●天王寺舞楽を伝承 小野功龍楽頭を訪ねて	1	●鶴殿(『陰陽師 玉手匣2』)	8
●雅樂いろいろQ & A ④	6	●高速道路建設への抗議文	9
●明治神宮と住吉大社 鼓面の張替え	7	●情報欄	10
●明治神宮の大太鼓修理	7	●雅樂 切り絵曆	12
●住吉の大太鼓について	7	●『雅樂執業抄』復刊	12

岡野玲子	8
東儀秀樹	9
	10
	12
	12

第32号  
発行

2013(平成25)年1月  
雅樂協議会

## 天王寺舞楽を伝承

天王寺樂所雅亮会 創立130周年

小野功龍 樂頭を訪ねて



聖靈会（4月22日）舞楽 太平楽 写真提供 四天王寺

天王寺舞楽は、天王寺独特の風格と特性を備えたものとなっています。例えば右方舞抜頭などに用いる2拍と3拍のとても軽快な八多良拍子（夜多羅拍子・八多羅拍子とも書く）は、天王寺樂人が生み出し、現在に伝えられており、右方の還城樂や左方の蘇莫者もこの八多良拍子で舞われます。もし、天王寺の樂人がこの八多良拍子を生み出していかつたら、舞楽の楽しさは半減していたのではないかと思えます。

天王寺樂所雅亮会は創立されて130年を迎えます。そこで天王寺樂所雅亮会樂頭の小野功龍氏（76）を大阪に訪ね、お話を聞かせて頂き、練習も拝見させて頂きました。

### 天王寺の舞 秦姓の舞

お忙しい中、時間を割いて頂きありがとうございました。前回お伺いしたのは、8年前「雅樂だより」創刊号で聖靈会について書かせて頂いたときでした。

今回は、天王寺の舞、秦姓の舞についてお話を聞かせ頂きたいのです。東儀俊美先生



小野功龍 天王寺樂所雅亮会樂頭

は『雅樂逍遙』に天王寺の舞樂について「我々の祖父、曾祖父を初め天王寺の樂人は、現在の天王寺流の舞を舞つていたに違いないと確信するようになった」(注1)と書いておられます。そのことについてまずお話を伺いたいのです。

「そうですね。東儀俊美先生から「現在の天王寺流の舞は、昔から変わっていない」という話を聞きましたして、とても驚きました。東儀俊美先生がこのように話され、また活字に書き残して頂いて、私たち天王寺の舞を伝えてきて良かったと思っています」

### 八多良拍子を生み出した

#### 天王寺樂所

八多良拍子を生み出して良かつたと思つています」

下の図会の右上部拡大図  
柵の外から覗く人々が描かれている



いのに比べると、天王寺の舞は誰でも見ることが出来るのですね。辺境の地といわれる四天王寺の舞樂は、見ようとすれば誰でも見る事が出来ました。そこに八多良拍子を生み出した背景があるように思います。

### 大きな石舞台

また天王寺の特徴は、舞台が大きいということです。四天王寺の舞台は、石で作られて

石舞台と呼ばれます。南北12.56m（約7間東西9・02m（約5間）で高さ0・98m（約3尺）です。

宮中での舞台は四間四方（敷舞台（舞人の舞う所）は三間四方）ですので、南北は2倍近く長く、東西では1・25倍長く作られています。階段も南北にそれぞれ二つ付けられています。この舞台の大きさは、舞樂の舞台と

しては一番大きな舞台だと思います。この様な大きな舞台も天王寺舞樂を生んだ要因の一つと思います。



階段が二つある四天王寺の石舞台。南北12.56m、東西9.02m 高さ0.98m

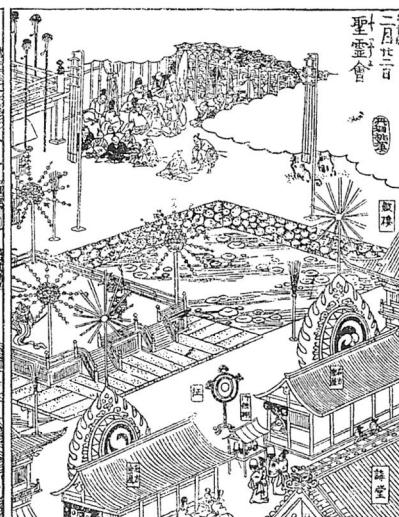
「そうですね。天王寺の樂人は、エンターティナーが多くいたのだと思います。八多良拍子がいつ頃に生み出されたかは資料がないので定かではありませんが、平安時代には出来上がつていたと思います。5拍のリズムは西洋もあります。平安時代におもしろい事を考えたと思います。それは面白く見せよう

という意識が働いたとも思います。その大きな理由の一つには、京都御所からの制約が無かったとあると思います。又「攝津名所図会」（下図）を見ると、庶民が柵越しに見物しているのが分かります。

京都の御所での舞樂は、御所の中ですからほとんど限られた人々しか見ることが出来な



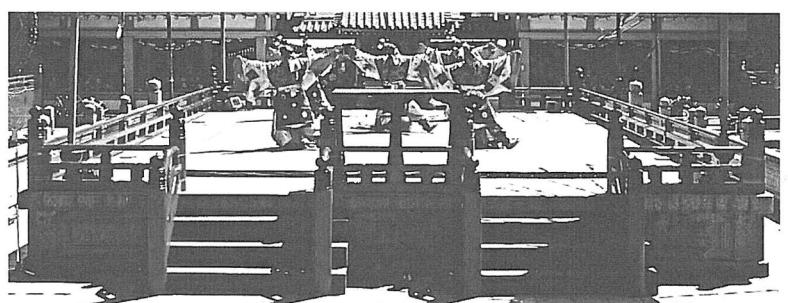
左図  
「攝津名所図会」江戸時代の聖靈会を描いている



### 世界一大きい

#### 四天王寺の大太鼓

舞台が大きいことと併せて、大太鼓も大きいです。高さは、日輪・月輪の上まで約8m、太鼓面も2m25cmあります。舞台も大きいので大太鼓も大きいものを備えたと思います。大太鼓はいろいろとございますが、実在している大太鼓の中でも四天王寺のものが最も大



大きいので、大きさは、世界一の大きさになると思いません。この現在の大太鼓は、旧の大太鼓が国的重要文化財に指定され寺の宝庫に入りましたので、1967年に旧の大太鼓を模して作られたものです。旧の大太鼓は豊臣秀吉の子の秀頼（1593～1615）が寄進したといわれています。

天王寺の舞・秦姓の舞  
（はなせい）  
天王寺の特徴はいろいろなところにあるのですね。東儀俊美先生はまた、天王寺の舞は秦姓の舞ともいわれ天王寺舞樂について次のように書かれています。（注2）『統教訓抄』には、「陵王等の走り物は、躰をせめ、力を入れて木を折りおくがごとくに舞うべし。弱弱とはあるべからず。のぶるところはつよきものから、殊更にしづかに、早きところは目もあられぬほどに火急に舞うべきなり」：（注3）とあるが、天王寺の舞い振りは非常にこれに近いといえる。それに天王寺樂所は、聖德太子の「佛教の普及に音楽を用いよ」の精神に



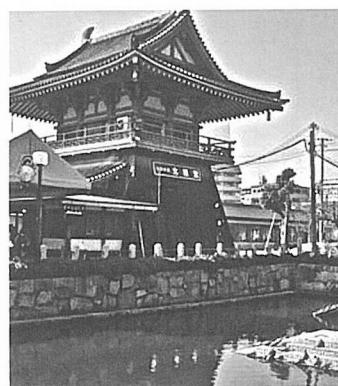
日本でも一番大きい大太鼓  
高さ約8m、太鼓面2.25m。  
1967年に旧大太鼓を模して作られた

則り、昔から民衆との距離が他の樂所より近かったのではないか。それだけ民衆に判りやすい舞樂を心がけて来たのではないだろうか（中略）千数百年続いて来た「秦氏の舞」を東京遷都によつて我々は失つてしまつた。それどころか、「秦氏の樂人」も激減している。今はわずかに雅亮会によつてのみ「秦氏の舞」と「天王寺派の舞い振り」が残つてゐるだけである。（中略）今風の雅樂に惑わされることがなく、昔から受継いで来た「秦姓樂人の舞樂」を胸をはつて思う存分に演奏して頂きたいと願う」と。

天王寺の舞・秦姓の舞の特徴について教えて頂けませんか。

「現在 宮内庁樂部の右舞の納曾利、八仙、抜頭、還城樂、陪臯、などは、天王寺の舞とほほ同じですね。宮内庁樂部の右舞は天王寺の右舞を伝えていています。中でも天王寺の舞の特徴と思われることを思いつくまま話してみたいと思います。

六時堂の前の鐘 南東には盤渉調の鐘



六時堂の前の黄鐘の鐘。  
引導鐘堂と呼ばれる。

くと申すめり、それもあまり侍る」（注4）と書いてあります。すなはち所を違えて、千鳥足で歩き、それも行儀が悪いと。退出のとき盃は舞台の外の亀池に投げるのです。蘇莫者で聖徳太子に扮し笛を吹くのは、宮内庁では舞台の上で吹きますが、天王寺では舞台の下、右の大太鼓の前あたりで吹きます。陪臯は、宮内庁では末額の冠をかぶりますが、天王寺は、左右両部の舞として扱われるところから、一鷺、三鷺は右の鳥兜、二鷺、四鷺は左の鳥兜をかぶります。また大輪小輪という所作があります。

また、舞の名目で、秦姓の舞の特徴と思われるものがいくつかございます。その一つは、「ひらく」という手ですが、普通は一直線に手を広げるとと思うのですが、天王寺では放物線ぎみに広げるようになると先輩から教わっています。他に「踊る」というのは、太平樂の「急」である。今風の雅樂に惑わされることがなく、昔から受継いで来た「秦姓樂人の舞樂」を胸をはつて思う存分に演奏して頂きたいと願う」と。

これらの舞の名目も秦姓の舞の特徴ではないかと思います」

寺の音楽がすぐれていることは当然だ。それは春秋の彼岸の中日に六時堂の前の黄鐘の鐘の調子に合わせ、正しいピッチで練習しているから」と書いていますね。

「そうですね。吉田兼好をして「天王寺の舞樂のみ都に恥じず」といわしめたように天王寺の樂人の技量は並々ならぬものであります。応仁の乱後の雅樂再興や豊臣秀吉の聚楽第での雅樂の復興の中心として天王寺の樂人の存在と力量が發揮されましたね。

『徒然草』に書かれているその黄鐘の鐘は、六時堂の前、亀池の南西にあります。引導鐘堂と呼ばれ、正式には黄鐘楼といいます。この鐘の音はあの世まで響き、極樂淨土にいるご先祖の心を安らげると言われています。鐘はもう一つ南東にありまして、この鐘は鯨鐘樓といい盤渉調の鐘です。黄鐘調の陽春の音に対して、秋の幽寂の響きを伝えているといわれています。

この鐘二つとも先の戦争の時に供出、戦後昭和26（1951）年に再興されたもので、祖先の供養のために鳴らされますので、聖靈云の最中でも黄鐘調の引導鐘は鳴らされます」といわれています。

この鐘二つとも先の戦争の時に供出、戦後昭和26（1951）年に再興されたもので、祖先の供養のために鳴らされますので、聖靈云の最中でも黄鐘調の引導鐘は鳴らされます」といわれています。

## 聖靈会の伝承と 雅亮会の誕生

：『雅亮会百年史 増補改訂版』を読ませ

て頂くと、明治時代に入つてからはとてもご苦労があつたようですね。そのあたりを教えて頂けませんか。

「明治以後の活動をまとめまして30年前に『雅亮会百年史』として発行しまして、5年前、2008年に『増補改訂版』を発行しました。そちらに経過など詳しく記しておりますので、要点のみを話させて頂きりますと、明治4年までは十二番半、25曲の舞楽を演じていましたが、都が東京に移つたのにともない天王寺樂人も東京に移つたため、明治5年は聖靈会舞樂法要も廃止せざるを得なかつたのです。明治の廢仏毀釈運動により当時の佛教団は苦境に追い込まれました。

### 明治12年に聖靈会復興

しかし8年後の明治12年4月20日に復興第1回の聖靈会舞樂大法要が古記録を忠実に再現し十二番半、25曲の舞樂が繰り広げられました。これには東京に移つた旧天王寺系の諸林（はやし）、岡（おか）、東儀（とうぎ）の姓を持つ樂人が大挙して下阪し、大阪に留まつた樂人と一緒に演奏されました。

ついで復興2回目の聖靈会は、4年後の明治16（1883）年3月30日に行われ、この時も25曲。東京からの旧天王寺系の宮内省樂人、大阪に留まつた旧天王寺系の樂人、そして民間人も舞い人として加わり数曲を舞つています。

こうした中、明治17（1884）年3月に

聖靈会舞樂を伝承する雅亮会が誕生しました。ですから今年は130周年となります。

### 雅亮会 名前の謂われ

雅亮会の名前は、親鸞の「淨土和讃」より「讀阿弥陀仏偈和讃」の中の一首

「宝林宝樹微妙音

自然清和ノ伎樂ニテ

哀婉雅亮スグレタリ

清淨樂ヲ歸名セヨ」

に典拠して名付けられました。

雅亮会のスタートとなつた復興3度目となる明治17年のときも十二番半、25曲の舞樂が行われました。このときも蘭（らん）、岡（おか）、多（おおの）などの樂人に加え、民間人、神官、僧侶など39名で演奏しています。

そして明治の後期まで、旧天王寺系の樂人に指導されていたようですが、

：東儀俊美先生の『雅樂逍遙』には、その明治期について「折も折、小野功龍先生から『雅亮会百年史』という本を戴いた。拝見すると、明治12年に行われた復興第一回の聖靈会には、東京に來ていた旧天王寺樂人の大半が参加したとあり、以後も明治後期まで東儀俊龍（私の祖父）、蘭広元、蘭広利らの諸先輩方が指導の為に来阪していたと書かれてい

る。もし天王寺の舞いが変化していたのならこれらの人達が注意して直した筈である。ということは、我々の祖父、曾祖父を初め天王寺派の樂人は、現在の天王寺流の舞を舞つていたに違いないと確信するようになった。そう思つて舞を拝見すると不思議なことに違和感が次第に薄れて「これが秦氏の舞だ」と思

われてくるのであつた」（注5）と書かれていました。

江戸時代末は、現在の天王寺流の舞を舞つていたのですね。

### 聖靈会 篛の舞樂 などなど

#### 演奏の場

：話は変わりまして、天王寺樂所は、昔は法隆寺や天野社などでも演奏されていましたが、現在はどのような場所で演奏されているのですか。

「そうですね。昔は資料によると、高野山天野社、法隆寺、熱田宮、長谷寺、矢田寺、などでも舞樂を演じていたらしいですね。

この辺のことについては南谷美保先生が詳しいですね。

現在は、四天王寺での舞樂は、4月22日・聖靈会の舞樂。8月4日・籠の舞樂。10月22日・経供養での舞樂の演奏がございます。住吉大社では5月・卯の葉神事、9月の観月祭の舞樂、厳島神社では元始祭での1月2日、3日の奉納舞樂。この厳島神社での舞樂の時、抜頭の舞人と胡徳樂（こじゆくらく）の瓶子取（はしづきとり）は厳島神社の宮司が舞います。今戎神社では、1月8日の奉納舞樂がございます。

### 芋をかじりながらも

#### 演奏した聖靈会

聖靈会は、第二次世界大戦のさなかにも、終戦後の窮屈のなかでは伽藍や樂舎は焼かれましたので舞台下に筵（しののめ）を敷いて、昼は芋をかじりながらも、手弁当で集い演奏してきました。そして後継者育成のために雅樂練習所を1949（昭和24）年に開設しました。また

1975（昭和50）年には四天王寺聖靈会舞樂が国の重要無形民俗文化財の指定を受けました。

#### 演奏会、ゼミナーなど

また、1966年より11月に雅樂公演会を開催し、11月に46回の公演会を開催します。

また1974年より6月下旬か7月には雅樂ゼミナーを開催し、こちらも39回となりました。その他に練習生の発表会も毎年開催しています。海外での公演も1978年のカーネギーホールでの公演を皮切りにドイツ、フランス、オランダなど多数の国々で開催しています。

ネギーホールでの公演を皮切りにドイツ、フランス、オランダなど多数の国々で開催しています。

海外での公演も1978年のカーネギーホールでの公演を皮切りにドイツ、フランス、オランダなど多数の国々で開催しています。

：ほぼ毎月 舞樂演奏の場があるのですね。そうしますと装束の管理などはとても大変ではないかと思いますがどのようにされていますか。

「装束の管理は大変です。特に四天王寺の古くからの舞樂装束は、次々に国の重要文化財に指定されまして、これに指定されると使用することが出来なくなりますので、四天王寺管長さんとの話し合いで、重要文化財に指定されたものから順に新しく作つて頂くことがあります。

#### 装束の管理

：ほぼ毎月 舞樂演奏の場があるのですね。そうしますと装束の管理などはとても大変ではないかと思いますがどのようにされていますか。

「装束の管理は大変です。特に四天王寺の古くからの舞樂装束は、次々に国の重要文化財に指定されまして、これに指定されると使用することが出来なくなりますので、四天王寺管長さんとの話し合いで、重要文化財に指定されたものから順に新しく作つて頂くことがあります。

装束の保管などは、聖靈会などの舞樂の演奏が終ると陰干しをして、数日後に会員の方に集まって頂き、装束などのほつれや傷みなどが無いかを点検して、傷みなどがあれば補修する手配をいたします。そして本坊にある蔵に保管します。これ等の作業の中で会員の方々は装束の扱いなどを覚えてゆきます」

## 天王寺の舞楽の伝承

：会員の方や練習生なども含めますと400名ほどおられるのです。今後についてお聞かせください。

「天王寺の舞楽は、古くは『聖德太子伝暦』に推古天皇20年、612年百濟より味摩之が伎楽を伝えたという伝承から、聖徳太子の側近の秦川勝の子息たち（東儀、薗、岡、林）が伝えてきたという1400年の伝統があります。この天王寺の舞楽を今後に伝えていくことが大切と考えています」

## 本坊での練習

長い時間いろいろとお話を聞かせて頂いた後、四天王寺の本坊での雅亮会の練習を見学させて頂きました。

石舞台の北東にある本坊は、とても広い、いくつもの畠敷きの部屋が渡り廊下で結ばれており、木曜日の夜は、四天王寺のご好意で雅楽の練習会場としてお借りできるという。あちらの部屋からは笛の唱歌が聞こえ、こちらの部屋からは笙の音が聞こえてくる。そして案内された奥の本殿では、練習生の合奏練習が始まっていた。

三間四方なら充分に6つは取れるのではないかと思えるほど広い畠敷きの部屋での稽古でした。

7時半からは会員による舞楽のお稽古ということで、舞楽のお稽古も見させて頂きました。

管方の人の座る場所も充分にあり、なお舞人さんは10名が手を広げてもお互いにぶつかるような事もないほど広い場所でした。なお

かつ、この合奏練習の場所のほかに管別での練習場所がいくつもありました。

会員、練習生合わせて400名でも練習場所に困らないというのは、うらやましいかぎりです。

**胡徳樂**は『教訓抄』にも天王寺樂所特有と

あり、会場は笑い声が絶えることなく沸き起り、心温まるなごやかな雰囲気になる。

第二部の舞樂陪臈は、130名余りの人達が管方装束と狩衣姿で高欄の回りを囲む姿はそれだけで圧巻である。「破」が終り「急」になると上から紙ふぶきが舞い落ちる。見るものを飽きさせない。演出も細やかでいて凝っている。

が管方装束と狩衣姿で高欄の回りを囲む姿はそれだけで圧巻である。「破」が終り「急」になると上から紙ふぶきが舞い落ちる。見るものを飽きさせない。演出も細やかでいて凝っている。

が管方装束と狩衣姿で高欄の回りを囲む姿はそれだけで圧巻である。「破」が終り「急」になると上から紙ふぶきが舞い落ちる。見るものを飽きさせない。演出も細やかでいて凝っている。

今回、いろいろなお話を聞かせて頂きました。雅亮会の方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。（鈴木治夫）

### 天王寺樂所雅亮会紹介

会員数	約200名
練習生	約200名
練習生募集	隔年
稽古日	毎週木曜 午後6時30分より
稽古場所	四天王寺内 本坊
会費	年間 7万円

雅亮会 46回演奏会 高欄を囲み130名ほどの管方が座る陪臈の演奏

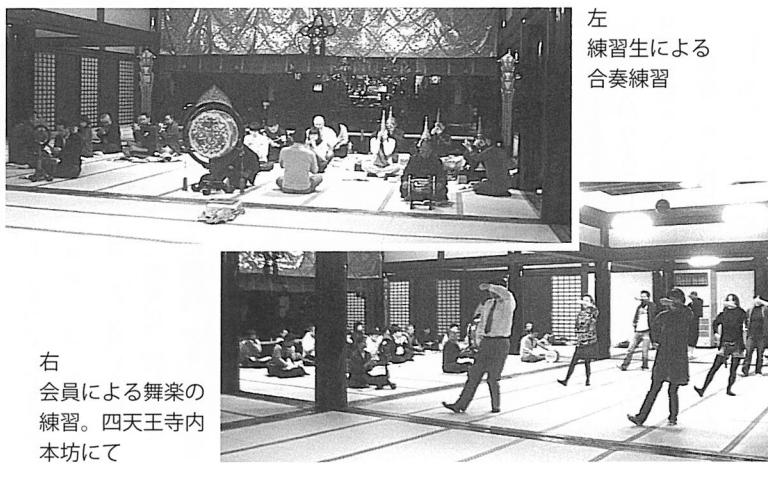
## 三方樂所で伝えてきた雅樂

小野功龍樂頭より、お忙しい中長い時間お話を聞かせて頂きました。特に天王寺舞樂、秦姓の舞について詳しくいろいろなことを学ばせて頂きました。本当にありがとうございました。

胡徳樂は『教訓抄』にも天王寺樂所特有とあり、会場は笑い声が絶えることなく沸き起り、心温まるなごやかな雰囲気になる。

第二部の舞樂陪臈は、130名余りの人達が管方装束と狩衣姿で高欄の回りを囲む姿はそれだけで圧巻である。「破」が終り「急」となると上から紙ふぶきが舞い落ちる。見るものを飽きさせない。演出も細やかでいて凝っている。

が管方装束と狩衣姿で高欄の回りを囲む姿はそれだけで圧巻である。「破」が終り「急」となると上から紙ふぶきが舞い落ちる。見るものを飽きさせない。演出も細やかでいて凝っている。



天王寺樂所雅亮会

### 第46回雅樂公演を見て

後日、11月18日(日)午後6時30分から梅田芸術劇場メインホールでの雅樂公演を楽しみに会場へ伺いました。1900余の席が開演時には3階までほぼ満席となっていました。

- (注1) (注2) (注5) 東儀俊美著『雅樂逍遙』
- 117頁～118頁
- (注3) 『続教訓鈔』第六冊 覆刻日本古典全集
- (注4) 『教訓抄』卷第五『古代中性芸術論』
- 「教訓抄」97頁

# 雅楽いろいろQ & A④

芝祐靖

**Q-4**  
女性の舞人ですと華奢な感じの舞になつてしまふことが多いのですが、女性の舞人はどのように舞つたら良いのでしょうか。装束が男性用で大きく、女性ですとぶかぶかな感じで、見栄えがあまり良くないのですが、何か良い方法はありませんか。

**A-4**

ご質問が二通りとなつておりますので「女性の舞振り」と「装束の着け方」に分けて、私の考え方述べてみましょ。

## 女性の舞振り

近年、女性が舞樂を舞うことが大変盛んになりました。女性だけで舞つたり、男性の中に混じつて舞つてることをしばしば見ます。女性の方が舞樂を舞台芸術と捉えて修練し、舞台で披露されることはとても素晴らしいのですが、舞樂本来の姿であるかどうかに多少の疑問もあるところです。

さてご質問①の「女性の舞振り」についてですが、「華奢な感じ」と記されているので、ここではきっと、男性に混じつて舞う場合を指しているのでしよう。

現在伝承されている舞樂のほとんどは、男性の体つきや動作に合わせて作られているよ

うに思います。背格好は男性と同じであっても、骨格や筋肉が違つてるので、どうしても女性舞いの動きは「華奢」(ほつそりとして上品で美しい姿)となつてしまします。男性舞いと肩を並べようと腕や足、腰に力を入れるとその様子が動きに現れ、どうしても舞が固くなります。

男性の中に混じつて舞うときは、「男性と女性の舞を見比べて楽しんでください」という気持ちを持って舞われた方が、観客も安心してみてくれるのではないか。

## 装束の着け方

私の着装体験記憶では、**裏装束**、**盤絵装束**、**桶襦装束**などの装束は、身長170センチ、胸囲100センチ、胴回り88~91センチぐら

いの男性の体格に合わせて作られているよう

に感じております。少し背格好の低い方、また瘦せ型の方は着けにくいようです。まして「華奢」な女性への着装はかなり上手な装束師に着けてもらつても、舞つて居るうちに締帶や前身頃の懷込が緩み、そして襟元も乱れてしまいます。ダブ感の解決方法は無いよ

うに思います。

贅沢ですが、自分の体格に合わせた装束を特注すれば、体にフィットしてダブ感は拭えますが、男性と混じつた時に、更に華奢に見

えると思いますし、また特注には莫大な費用がかかるので実現は不可能と思ひます。

10年以上前のお手紙に「朝4時起きして、四人の女舞の装束を縫つてゐる」・・・とありました。また、天理大学雅楽部は、女性舞「柳花苑」の復興上演のおりに、自分たちで女性装束を縫製したと聞きました。

内教坊（我が国）の妓女です。『教訓抄』に見る限りでは、平安・鎌倉時代の舞樂は貴紳や男性樂人によつて舞われ、女性は妓女舞・巫女舞に専従したように思われます。そのよ

うな状況で、女性の舞姿を描いた資料はほとんどありません。信西古樂図（藤原通憲撰）にたつた一図「柳花苑」の舞い姿が見られますが、これは唐代妓女の姿と思われます。



「信西古樂図」を参考に女性の装束として製作された天理大雅楽部の「柳花苑」



「信西古樂図」柳花苑

## 「エピローグ」

せつかくのご質問に悲観的なことしか記せず、申し訳ございません。

きっと質問者は、舞樂が好きで稽古に励み舞台を務めた方と拝察しますが、女性が男舞を舞うと、さまざまハンドディキヤップがあることに気が付かれたことと想ひます。このハンドディを拭うことは大変難しいことですので、その情熱を古式の女舞の復興に注いで戴きたく思う次第です。

古代に存在した女性舞いにも、きっと優れた芸術性が秘められてゐることでしよう。

## 明治神宮と住吉大社

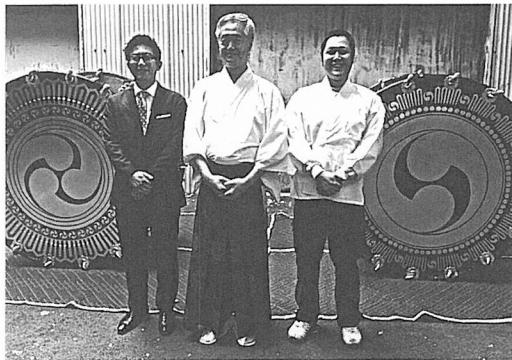
### 太鼓の鼓面の張替え

昨年、東京の明治神宮と、大阪の住吉大社の大太鼓の鼓面の張替えが行われた。

### 明治神宮の大太鼓修理

明治神宮の大太鼓の今回の修理は、左右の大太鼓両方の打面側の皮の張替えで、宮本卯之助商店が行いました。鼓面の張替えで苦労した点についてお聞きすると「やはり鼓面が大きいため、皮を揃えることが大変でした。このような皮は100枚に1枚位の割合でしか見つかりません」とのこと。

宮本卯之助商店の話によると、明治神宮の大太鼓は、1961（昭和36）年秋に調製し、左右一対として納められたもので、これは同店の宮本堅二専務の発案により、火薬が6枚



(左から) 宮本卯之助商店 代表取締役社長 宮本芳彦氏  
明治神宮 水谷敦憲氏  
宮本卯之助商店 太鼓部長 木場将行氏

に分割されており、数人いれば30分程度で組立、分解できるようになっている。大太鼓一つを作るのに約2年を要したという。

その後、1975（昭和50）年春に塗りがひどくなつたため、鼓面の補修など塗り直しをし、1983（昭和58）年10月に大太鼓及び大鉦鼓一对の塗替え修理を行つた。2005（平成17）年に調べが切れたため新調交換し、そして今回の皮の張替えとなつた。この明治神宮の大太鼓の大きさは、日形・月形までの高さは4.9m、火薬部分を含めた横幅は2.5mで、鼓面の直径は1.51m(5尺)である。

### 住吉の大太鼓について

#### 住吉大社権禰宜 庄司 誠

当社卯之葉神事において、重要文化財「石舞台」・「樂所」で行われる卯之葉神事は、艶やかな装束、優美な樂と舞は、見る者を平安絵巻の世界へと誘う。その中で一際目を引くのが、当社伝来の一対の大型締太鼓「太鼓」と呼ばれる舞樂専用の太鼓。裝飾板の形から「火薬太鼓」とも呼ばれ、舞台や樂舎と共に様式美を整え美術的価値を生み出しますと共に、舞人や管方にとつても重要な打楽器である。左右一対とし、左方（唐樂）奏樂時は、三つ巴紋・龍の浮彫の太鼓を、右方（高麗樂）奏樂時は、二つ巴紋・鳳凰の浮彫の太鼓を使用する。筒状の胴の両面に撥面となる太鼓皮を調緒で結わえ、胴を火薬型の裝飾板で挟み、台座に据えて固定する組立式の太鼓である。

に分割されており、数人いれば30分程度で組立、分解できるようになっている。大太鼓一つを作るのに約2年を要したという。

部の古社古刹に限られる。日本一大きい鼓面は、大阪四天王寺所有のもので鼓面直径が2m 25cmにもなる。当社の伝来の鼓面直径は6

尺（鉄杵を含めると約2m）とやや小振りで

はあるが、力強い火薬や各彫刻の美術的価値は他に引けを取らない。この太鼓は、石舞台と共に豊臣秀頼公奉納と云う伝承はあるもの、残念ながら確かな史料が残っていない。

修理の記録（延享2年・文政2年・大正13年）を紐解くと、修理の時期が住吉舞樂の再興や遷宮や皇室参拝という節目の時期に符合しており、手間も費用もかけ修理して太鼓を用いてきた事に、先人達がいかに舞樂とその様式美を重視してきたかが伺える。近年は昭和45年の修理で裝飾板の極彩色が剥つたが、大正期の鼓面は使用に耐えない程の損傷だった為、この度は京都大筆屋に依頼して左右両基の鼓面の新調を行い、平成24年卯之葉神事において新鼓面の御披露目となる打初式が行われた。

（住吉大社発行「住吉つさん」11月1日より転載）

打初之儀 小野功龍天王寺樂所雅亮会樂頭



## 鵜殿ヨシ原に高速道路が検討会設置へ NEXCO西日本

鵜殿ヨシ原に、高速道路の建設着工が昨年4月6日に閣議決定され、この決定に対し「鵜殿のヨシを守ろう」「文化を守ろう」と雅楽関係者、文化人など多くの方々が、声明を出され、署名活動なども行われている。（雅楽だより）31・30・25・22・19・18・15・8・2号など参照）

その後、新聞やテレビでも取り上げられるようになり、8月4日東京新聞は、「雅楽存続危機 奏者の東儀 保全 強く訴え」と報道し、また漫画『陰陽師』を書かれた岡野玲子氏は、11月5日発行の『陰陽師 玉手匣2』のあとがき（8頁参照）に鵜殿へ寄せる思いを書かれた。東儀秀樹氏は11月18日高速道路建設への抗議文（9頁参照）を発表され、翌19日ヨシの保全を求めて羽田雄一郎国土交通大臣と面会した。（9頁参照）同日テレビMBS VOICEは「雅楽演奏家が国に申し入れ」と放映した。

また同19日、高速道路建設を請け負つてゐる西日本高速道路株（NEXCO西日本）は、鵜殿ヨシ原の環境保全のための専門家による検討会の設置を発表し、「高速道路建設にかかることは、検討会でこれから検討する、また2~3年かけて鵜殿の環境や地下水などを調査を行う」と説明した。

通行止め計画」、東京新聞は「簾築用ヨシ保全訴え、国交省と面談」と報道した。NHKテレビは、鶴殿ヨシ原の保全活動などを取材し、12月10日ニュース・テラス関西で、14日はおはよう日本で全国放映した。

### 『陰陽師玉手匣2』あとがきより

岡野玲子

「源博雅、盗賊に遭うこと」を人稿した直後、雅楽の音色の未来に関わる危急の出来事が飛び込んできました。

この物語のベースは「古今著聞集」に収まっている「盜人博雅三位の簾築を聴きて改心のこと」でした。漫画として表現するために、簾築のことを調べたり簾築の稽古の様子を取り材したり、簾築のリードにあたる「蘆舌」作りの、気が遠くなるような細かい手作業のことなども調べてきました。本文の中でも、源博雅が「蘆舌」をたくさんつくって帽子をかぶせたり、ネズミに盗まれたりしていましたね。

原稿の入稿後入ったのは、その「蘆舌」が危機に瀕している、という情報でした。

簾築の演奏になくてはならない「蘆舌」は、簾を使つてひとつひとつ手作りされますが、それは消耗品で、新しいものへの交換が必要です。その「蘆舌」に最も適している、太くて弾力性のある蘆が自生している場所は、世界でもただ一ヶ所、大阪府高槻市の淀川河川敷の『鶴殿ヨシ原』と呼ばれる一帯です。そこ

は宇治川、桂川、木津川の三川が合流し淀川となつたところから五キロほど下流の河川敷で、対岸には樟葉の駅があります。

石清水八幡宮から近く、周りには平安時代に桓武天皇や嵯峨天皇が好んで行幸した水鳥の多い水生野や交野のお狩り場もあって、水辺の植物のスケールに圧倒される景観をいつか描こうと、取材のため往復した経験があります。何か現代と違う、過去の時代に繋がる、そんな気持ちになる場所です。

長年「鶴殿ヨシ原」の保全に尽力してこられた「鶴殿ヨシ原研究所」の所長で植物生態学者の小山弘道先生によると、「鶴殿」は宇治川、桂川、木津川の三川それぞれが川独特的肥沃な栄養を運んで来て、溢れたり、乾いたりを繰り返すことで、他の河川にはできない太く張りのある蘆を育てることができる日本でただ一つの場所なのだそうです。

また、鶴殿に生息する絶滅危惧種も多く、四季折々に渡つてくる野鳥たちやヨシ原に生息する小動物たちもたくさんいて、現代に残る貴重な自然の宝庫でもあります。小山先生はじめとする鶴殿ヨシ原研究所ボランティアや鶴殿クラブの皆さんのが、長年その宝を丁寧に観察し、守り続けてこられました。

淀川を調べてみると、琵琶湖から流れ出るただ一つの川で、流れ込む支流の数も日本で一番多く、それだけ各地方からの要素を水の中に含み、河川に肥沃な土壤を形成しているのなら、その集積の頂点のエリアである鶴殿に、異種と間違えられるほど太い特別な蘆

が育つのも頷ける、貴重な川だつたのです。

危急の問題とは、その鶴殿の真上を、「新

名神高速道路」が通ることでした。この計画は、暫く凍結されていましたが、今年の四月、凍結が解除され二〇二三年の完成に向けて、「新名神高速道路」の八幡～高槻間の建設着工が決定してしまつたのです。

高速道路の建設が鶴殿に及べば、土壤や地

下水の流れが変化し鶴殿の自然の生態系への影響は計り知れなく、消滅してしまうことが危惧されています。簾築のリードに相応しい蘆も、国内および中国からも未だ見つかっていないとも伺いました。

七月には、地元大阪の民間の雅楽関係者の皆さんと小山先生によって鶴殿ヨシ原の保全の為に働く組織「SAVE THE 鶴殿ヨシ原」雅楽を未来へつなぐ」が立ち上げられました。

私は楽師でも簾築奏者でもありませんが、作品の中でたくさん「蘆舌」を描いた直後に届いた情報に、何もしないでいることはできず、八月末に石清水八幡宮に鶴殿ヨシ原の保全を祈念し、その足で鶴殿に参りました。

ヨシ原の中に立つて上流を見ますと、右手に石清水八幡宮を祀る男山が、左手に天王山が。そしてその中央に京都の鬼門を守る比叡山の悠然たる姿が見えてくるのです。古来、皆、この景観を見ながら、灘から琵琶湖へ、奈良へ京都へと川を往来して来たということ

を、必ずと思い出してしまって、土地そのものに歴史の記憶が生きていて語りかけてくるような、不思議な魅力に満ちた場所でもあります。

そうして、自然の、いのちの、息の根を止めめるような、命のボテンシャルの高い急所を寸断するような建設を、もう一度皆で丁寧に見直して、回避して行く時代がきているのではないかでしょうか。

アジア各地から我が国に渡つて国風に姿を変えながらも、およそ一四〇〇年間絶えることなく伝えられ残された、世界でも最も珍しく最も古いオーケストレーションであり、洗練された舞いと超絶的に手のかけられた豪華

雅楽は調和の音楽です。雅樂の中心となる音色は三種類の竹の管。笙。龍笛。簾築です。笙の音色は、雲間からまつすぐ差し込む天の光。大地から天へまつすぐ立ち昇る音の光。龍笛は天と地の間を風のように飛翔し、天と地を自在に結ぶ龍の声。

そして簾築は、大地に息づく生き物たちの聲。いのちの音色。

鶴殿のことを知った今では、いのちの音色を掌る簾築の蘆舌の育まる場所が、日本でも特異に肥沃な土壤と生態系を保持する鶴殿ということは、決して偶然とは思えなくなりました。鶴殿あつての簾築のいのちの音色なのです。

高速道路建設の知らせは、かえつて、歴史的要素においても物質的要素においても、肥沃に堆積した密度の濃い稀有の土地、「鶴殿」のことを私達に伝えてくれ、いのちの音色の秘密を教えてくれました。

その機会を有り難く大切に思いたい。本当に大切なものは何なのかなを、自然から問われていてるような気がするのです。

そうして、自然の、いのちの、息の根を止めめるような、命のボテンシャルの高い急所を寸断するような建設を、もう一度皆で丁寧に見直して、回避して行く時代がきているのではないかでしょうか。

アジア各地から我が国に渡つて国風に姿を変えながらも、およそ一四〇〇年間絶えることなく伝えられ残された、世界でも最も珍しく最も古いオーケストレーションであり、洗練された舞いと超絶的に手のかけられた豪華

な装束、美しい楽器たちの視覚美を備えた総合芸術でもある雅楽。

盜賊の心を、動かして、

盗まれたものすべてが返された、

博雅の筆築の音。

その音が絶えないことを。

祈り捧げて、第二巻のあとがきとさせていただきます。

『陰陽師玉手匣2』 2012年11月5日 (白泉社刊)

## 高速道路建設への抗議文

### 地球規模の文化への冒流！

### 日本の文化が台無しになる！

東儀秀樹

いま国土交通省の高速道路建設のために大阪の高槻市の鶴殿の蘆原が埋め立てられようとしている。

このことで日本の文化の歴史が大きく崩れることになる。日本には世界無形遺産に制定されている雅楽という伝統芸術があり、それは千年以上にも渡り変わらぬ形で皇室、神社、仏閣などの儀式に捧げられ続けて来た。そして雅楽は今や儀式のみならずいろいろな新表現も含めて日本を代表する音楽芸術表現として世界にも認められている。

それが高速公路の建設のためにその音色が継承されなくなる可能性が出て来たのである。雅楽の主旋律を担う筆築の音色は古代から鶴殿の蘆が使わってきた。

まな条件がその最高の音色となる蘆を生んできた。太さや側の厚み、織維の密度など、ほかの蘆とは比べ物にならないほどピンボイントでこの蘆は筆築に向いているのである。だから太古の昔から鶴殿の蘆に限るとして継承されてきた。皇室の儀式で響く筆築の音は鶴殿の蘆だからこそその音色が捧げられてきた。蘆なら他でも採れるだろうと考えられてしまうのだが、他の場所の蘆では平安時代から変わりなく続いてきた音にならなくなってしまう。文化が変わってしまうことになる。

雅楽を世界に語るとき、地球の他のどの国にも有り得ない、千年以上も変わらぬ音色を継承し続けている。という点で日本は誇りを持つことができた。それが高速公路のためには、「ついこの間までは続いていたのだが…」といふい訳を付け加えなければならなくなるのはとても悲しい。

ここまで、千年以上も続けてきた価値が、変わってしまう。変えてしまうということは海外にも国内にも、そして未来の日本人にとって、非常に恥ずかしい行為だ。もつたいいい、と言われてからではもう取り戻せないのである。

ここまで、千年以上も続けてきた価値が、変わってしまう。変えてしまうということは海外にも国内にも、そして未来の日本人にとって、非常に恥ずかしい行為だ。もつたいいい、と言われてからではもう取り戻せないのである。

これまで、千年以上も続けてきた価値が、けでいた文化ではなく、そこが日本の自負すべき誇りであるのにも関わらず、いま千年の誇りが失われようとしているのは重大なことだ。世界に向けての汚点となる。

文化こそがその国の個性を最も物語ることができる。

国際的にみても日本にいま必要なのは文化力なのだ。

雅楽の筆築のリードに使われる鶴殿の蘆も、単に筆築のリードとしての文化のみならず、鶴殿の蘆の独特的な文化が絡んでいる。焼いて育てる工夫やその地域だからこそその特徴であったり、生態系への影響にまでも細かくリンクする。雅楽が正統に昔ながらの形で生

き続けるからこそ、鶴殿の蘆原はその土地の文化の象徴としての価値がある。日本の古代传统文化、宮廷文化を支えた文化の誇りがそこにはある。

宮中の祭り事、神や仏に捧げる究極の形、音色、あるいは平安から続く貴族の美意識は世界に誇る日本文化であり、その一片鱗も潤つたり崩れたり、まして消滅してはならない。

雅楽は日本の遺産にとどまらず、世界のシルクロード文化の生き残りであり、その一部分でもないがしろにすることは世界規模での文化に対する冒流となる。

便利さの発展だけのために文化をないがしろにする考えは日本の大きな恥となる。一度消滅したものは二度と同じ形で蘇ることも無く、1000年以上も同じ方法で継承して来た、と胸を張って誇りにして来た日本文化が

しまった。他のどの国にも千年変わらず生き続った、と胸を張って誇りにして来た日本文化が

しまった。他のどの国にも千年変わらず生き続った。

そして、その場で大臣は僕の言葉をしっかりと聞き受けてくれた。その上で、ぜひ会って話をしようという運びになつたのだ。

そして、国土交通省側の考えを丁寧に示してくれた。今回、僕も初めて現状を知つたのだった。

国交省の説明では「昭和の初期まではぶん

だんに有つた蘆原が57年の調査では8%まで減少していたところ、国土交通省がその保全のために水の流れをアシストするポンプアップなどの対策をし、その結果平成23年には13%に回復した」と話され、その上で高速公路の建設予定の場所を示してくれた。それでも今回の建設にあたつて何かしらの引き戻されるような被害が生じてはならない。そこでさらに話の中で、「現在の実験的な導水路の規模をより効率の良い方法にするなどの方向で対策すること」「高速公路掛け方の工法においても水の流れなどで改悪されないよう

## 国土交通大臣との面会を終えて

東儀秀樹

抗議文を表明した後、11月19日、国土交通省に出向いて羽田大臣と対談をしてきた。実際に大臣と本心で意見交換をする場が設けられたのは有意義だった。

実は僕が首謀しているクラシックカーラリーに大臣が列席されていて、大臣がいるからこそと、わざわざその壇上で僕は鶴殿の蘆原の件がもたらす伝統文化の危機感をスピーチした。

そこで、わざわざその壇上で僕は鶴殿の蘆原の件がもたらす伝統文化の危機感をスピーチした。

方法で建設することを検討すること」「蘆原の現状を維持する、というのではなく、さらなる面積の増加につながる努力をすること」  
「焼き原が行われる日にはその道路を閉鎖して、迂回してもらつてもその文化を優先すること」などを約束してくれた。

ということで、今回の大臣との対談はとても意義のある実り深いものだった。

そして今回の話の内容がそれることなく間違つた方向に流れるものないように、今後、この件に対する検討会にオブザーバーとして僕も加えてもらうことを国土交通大臣に留意して頂いた。今後長きに渡り、僕は絶えずこの件に注目していくたいと思う。

でも、これで安心している訳ではありません。このことがしつかり間違いの無いように、そして良質な蘆の育成環境の保全に何が最も適するのか、も含めて気を緩めずに総合的に関わって行きたいと思います。

それから今回のこととてたくさんの方々が氣をもんだことになりました。宮内庁樂部も民間の雅樂団体も、そして僕も、

みんな自國の文化に誇りを持ち同じ方向を向いて心配したのです。このことでこの小さな雅樂界が今一度ひとつになれたらしいなど思いました。人間関係に関係なく、いいものを残したいという情熱は同じはずなのです。遠くの大事な目的はみんな同じでひとつになります。この鵜殿の蘆原の問題がそういう別の問題の改善の糸口になることも僕は望んでいます。

前号に掲載できなかつた 演奏会など	
<b>冬～春までの主な雅樂演奏会など</b>	
12月2日（日）午後1時、5時 8400円	NHK教育テレビ 舞樂
○世界遺産条約採択40周年記念（京都）	1月1日（火）午前6時40分～7時
総本山醍醐寺（靈宝館）	1月2日（水）午後1時 二日祭
管絃 漢調音取 千秋樂 朗詠 紅葉	演奏 宮内庁式部職樂部
越殿樂 舞樂 北庭樂 八仙	出演 宮内庁式部職樂部
<b>伊勢神宮 御饌 東遊（三重）</b>	
1月8日（火）午後2時 今宮戎神社	1月11日（金）午前10時、午後1時
振鉢 桃李花 納曾利 賀殿 長慶子	卯杖舞 扇舞 催馬樂 浅花田 竹川半首万
演奏 雅亮会	春樂 何そもそも
問合せ Tel 052-971-4151	問合せ Tel 0596-24-1111
<b>新春の雅樂 古典と現代（岐阜）</b>	
1月13日（日）午後3時	内宮神樂殿東隣 演目 東遊
問合せ Tel 0596-24-1111	サラマンカホール
S席3000円 A席2500円 学生半額	1月13日（日）午後1時 ごろ
管絃 平調音取 越天樂 陪臯	卯杖舞 扇舞 催馬樂 浅花田 竹川半首万
舞樂 太平樂 狐梓 胡德樂 蘭陵王	春樂 何そもそも
納曾利	問合せ Tel 052-971-4151
<b>上賀茂神社 競宴祭</b>	
1月5日（土）午後4時	1月13日（日）午後3時
舞樂 還城樂 演奏 平安雅樂会	問合せ Tel 0596-24-1111
問合せ Tel 075-781-0011	新弓を寿ぐ雅樂の調べ（東京）
<b>Kitaraニユーアイユーコンサート ～雅樂（北海道）</b>	
1月6日（日）午後2時	1月26日（土）午後1時
札幌コンサートホールキタラ（小）	朝日カルチャーセンター新宿
3500円 小中高生500円	越天樂 春鸞 嘉辰 千歳など
越天樂残樂三返 芝祐靖作曲 舞風神	石川高 中村かほる 中村仁美
問合せ Tel 0742-22-7788	問合せ Tel 03-3344-1946
<b>春日大社 舞樂始式（奈良）</b>	
1月14日（月）午後1時 林檎の庭	1月26日（土）午後2時
管絃 平調音取 越天樂 陪臯	ザ・シンフォニー・ホール A席5000円
舞樂 振鉢三節 地久 還城樂（左）長慶子	B席4000円 C席3000円
登殿樂 貴徳 登殿樂	管絃 平調音取 催馬樂 更衣
問合せ Tel 058-277-1110	越天樂 残樂三番 陪臯 舞樂 春鸞一具
<b>東京の新春 雅樂公演（東京）</b>	
1月26日（土）午後2時	東京の新春 雅樂公演（東京）
深川戸資料館 2000円（全席自由）	1月26日（土）午後2時
舞樂 振鉢三節 胡蝶 陵王	深川戸資料館 2000円（全席自由）
登殿樂 貴徳 長慶子	舞樂 振鉢三節 胡蝶 陵王
問合せ Tel 03-3630-0038	登殿樂 貴徳 長慶子
<b>富士市文化会館 ロゼシアター 中ホール</b>	
1階席5000円 2階席2500円	第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
学生1000円	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
舞樂 拔頭 他 演奏 伶樂舎	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
問合せ Tel 011-520-1234	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
1月8日（火）午後2時 今宮戎神社	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
振鉢 桃李花 納曾利 賀殿 長慶子	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
演奏 雅亮会	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
問合せ Tel 0545-60-2500	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
1月11日（金）午前10時、午後1時	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
卯杖舞 扇舞 催馬樂 浅花田 竹川半首万	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
春樂 何そもそも	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
問合せ Tel 0596-24-1111	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
新弓を寿ぐ雅樂の調べ（東京）	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
1月26日（土）午後1時	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
朝日カルチャーセンター新宿	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
越天樂 春鸞 嘉辰 千歳など	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
石川高 中村かほる 中村仁美	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
問合せ Tel 03-3344-1946	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
新春の雅樂（大阪）	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
1月26日（土）午後2時	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
ザ・シンフォニー・ホール A席5000円	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
B席4000円 C席3000円	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
舞樂 陵王	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
東京樂所 三輪眞弘	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
企画 多忠輝（宮内庁式部職樂部）	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
プロデュース 野原耕二	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
主催 サラマンカホール	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
問合せ Tel 058-277-1110	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
1月14日（月）午後1時 林檎の庭	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
管絃 平調音取 越天樂 陪臯	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
舞樂 振鉢三節 地久 還城樂（左）長慶子	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
登殿樂 貴徳 登殿樂	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
問合せ Tel 058-277-1110	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
1月26日（土）午後2時	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
深川戸資料館 2000円（全席自由）	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
舞樂 振鉢三節 胡蝶 陵王	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
登殿樂 貴徳 長慶子	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取
問合せ Tel 03-3630-0038	第二部 出演 東京樂所 企画 プロデュース 野原耕二
1月19日（土）午後3時	第三部 第一部 楽器紹介 多忠輝 管絃 平調音取

## 新春の雅楽（東京）

雅樂第2回定期公演

## チケットプレゼントあり

1月27日（日）午後2時

東京オペラシティ コンサートホール

S席 5000円 A席 4000円

管絃 平調音取 催馬樂 更衣

越天樂 残樂三返 障驢 舞樂 春鶯囀一具

出演 東京樂所 企画 多忠輝

プロデュース 野原耕一

主催 株式会社 AMATI

問合せ Tel 03-3560-3010

春日大社 万灯籠（奈良）

2月3日（日）午後5時半ごろ

舞樂 納曾利 林檎の庭

問合せ Tel 0742-22-7788

新春の雅樂（岐阜）

2月9日（土）夜公演

こくふ交流センター さくらホール

一般席 2000円 メセナメイト 1700円

管絃 楽器紹介 平調音取 越天樂 障驢

舞樂 装束紹介 陵土 落蹲

出演 東京樂所 企画 多忠輝

プロデュース 野原耕一

主催・問合せ Tel 0577-34-6550

（社）高山市文化協会  
2013年 音楽祭 コンサート（福島）

ミュージック・フロム・ジャパン

2月10日（日）午後2時半 3000円

福島市音楽堂大ホール

舞樂 納曾利 増本伎共子作曲 嬉遊樂ほか

演奏 伶樂舎ほか

問合せ Tel 024-531-6221

## 天理大学雅樂部（鳥取・島根・大阪・東京）

## チケットプレゼントあり

相思千一年 源氏物語 XI

伎楽 崑崙

管絃 双調 賀殿急 武徳樂 謠物 高砂

舞樂 蘇志摩利（右方）胡飲酒（左方）

前売り 2000円 当日 3000円 各公演共

鳥取公演 2月16日（土）午後2時

島根公演 2月17日（日）午後2時

大社文化プレイスうらら館

第32回 大阪公演 3月3日（日）午後2時

大阪国際交流センター（大ホール）

第38回 東京公演 3月9日（土）午後2時

問合せ Tel 0743-63-4945

浅草公会堂（全席指定）

聖徳太子御忌舞樂四天王寺殿（大阪）

2月22日（金）舞樂 振鉢 承和樂

演奏 雅亮会

子どもたちと芸術家の出あう街 2013 雅樂ワーキシヨップ（東京）

3月2日（土）午前10時半～12時

1000円（対象：小学生以上）

東京芸術劇場リハ室 伶樂舎

問合せ Tel 03-5610-7275

2013年 平安の響き（愛知）

～1300年以上受け継がれし、雅の調べ～

3月9日（土）午後1時半、午後5時

3000円（自由席）西尾市文化会館小ホール

管絃 盤渉調音取 越殿樂 残樂三返

蘇莫者破残樂 特別演奏 朗詠 新豊

舞樂 迦陵頻 披頭（右方）長慶子

「特別出演」宮内庁樂部前首席樂長 豊英秋

首席樂長 安齋省吾 楽長 池邊五郎

豊英秋

## 楽中練の雅樂譜本

総合譜 新刊 壱越調・盤渉調・太食調（全六刊）

各調子ごとの総合譜（スコア譜）。

雅樂の譜面ではこれまでなかつた吹物三管に、打物と弾物が一緒になっています。また、繰り返し部分も前のページに戻ることなく、そのまま進められるよう繰り返し部分を書き足してあります。

複合譜 箏・打物（東儀俊美先生監修）・琵琶（上明彦先生監修）（各鳳笙、簫篥、龍笛）

各吹物に弾物または打物の譜を併記させた譜。

打物の表記法（楽中練の表記法）を平成と名付けました。

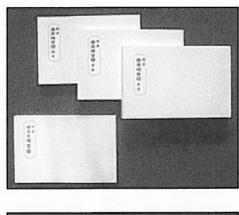
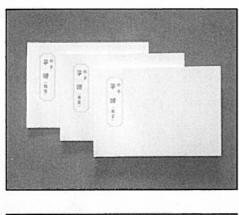
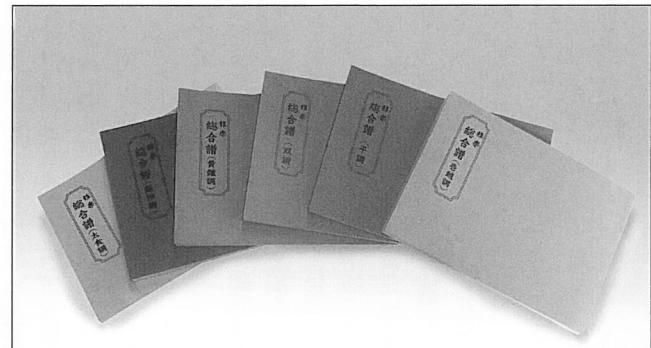
練習譜 舞樂譜（鳳笙、簫篥、龍笛）。催馬樂

舞樂譜 舞樂用に吹物を二具にまとめ、打物も合わせた譜。舞樂を練習する場で、教わる側での視点から編集してあります。（舞譜ではありません）

催馬樂譜 従来の墨譜（縦書き）と音振譜（楽中練の表記法）横表記した譜。付物の譜をまとめた譜。

高麗譜 高麗笛・簫篥・打物

高麗樂の譜で、打物譜には高麗笛と簫篥そして打物が一緒になっています。



<p><b>第26回 天王寺樂所雅亮会</b></p> <p>雅樂練習所発表会（大阪）</p> <p>3月14日（木）午後6時 入場無料</p> <p>大阪国際交流センターホール</p> <p>問合せ Tel 0563-56-6660</p> <p>樂師 豊靖秋 演奏 主韻会 （しゅいんかい）</p>
---

<p>○ 雅樂 切り絵暦 小さな森の美術館</p> <p>十四年前から、主に雅樂を題材として作り始めました。切り絵は一点一点心を込め刻み制作しております。毎年雅樂好きの皆様、和物大好きな方に好評を頂いております。</p> <p>（作者：KYOKO）</p> <p>※ いずれも数量限定で制作しておりますので品切れの際はご容赦ください。定価2千円尚、ご注文はFax 022-275-6449（又はTel 022-275-7317）にて、ご住所、お名前、電話番号、部数をお知らせください。</p>	 <p>切り絵暦より 喜春樂</p>
--	--

<p>塚本増能氏がこの『雅樂執業抄』の原本を探し出して照合し復刊され、読者の方に実費でお分けしますと連絡がありました。</p> <p>A5判・30ページ。</p> <p>購入の方は、実費千円を現金書留で塚本氏へ送金ください。</p> <p>問合せ Tel 630-0233 奈良県生駒市有里町 95-5 塚本増能</p>	<p>○ 座番号 00140-5-6140323</p> <p>なお『雅樂執業抄』の目次は以下のとおりです。「序、楽人進退、笙作法、簞篥作法、笛作法、琵琶進退、箏進退、鞨鼓作法及用法、壺鼓作法、二ノ鼓用法、三ノ鼓用法、鶴妻兆鼓用法、太鼓作法及用法、臺太鼓用法、荷太鼓用法、鉦鼓用法、臺鉦鼓用法、荷鉦鼓用法、雅樂曲課定法、序、音頭奏法、調子奏法、楽曲奏法、神饌供奉奏方、道楽二就イテ、残樂二就イテ、失錯ノ心得、残樂三返ノ奏法、残樂五返ノ奏法、古樂ト称スル楽名、古樂新樂両説ノ楽名、高麗樂奏法、舞技要領、催馬樂奏法、朗詠奏法」</p>
--	---

<p>○ 宮中雅樂カレンダー</p> <p>「練習の現場で、より見やすい譜面」をと12年前から発行を始めた楽中練の雅樂譜本は、総合譜（各調子ごと全6巻）、舞楽譜（管ごと全3巻）なども完成し22種類の譜面が出来揃つた。樂器ごとに色分けするなど、記載の方法には苦労されたと云う。</p> <p>武藏野樂器（Tel 03-5902-7281）、芝祐靖先生への質問を引き続き受け付けており</p>	<p>○『雅樂執業抄』復刊</p> <p>明けましておめでとうございます。「雅樂だより」も9年目に入りました。本年もよろしくお願い申し上げます。紙面へのご意見・ご希望として雅樂の情報などお気軽に寄せください。お待ちしています。</p> <p>（雅樂だより）第32号</p> <p>2013（平成25年1月1日）</p> <p>発行 雅樂協議会 編集 雅樂協議会 「雅樂だより」編集担当 連絡先 Tel. 042-451-8898 FAX. 042-451-8897 メール gagakudayori@yahoo.co.jp http://www.gagaku-kyougikai.com/</p> <p>印刷 秀英堂紙工印刷株式会社</p> <p>雅樂の樂器・譜面 ほか</p> <p>（株） <b>武藏野樂器</b></p> <p>〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6 電話 03-5902-7281 FAX 03-5902-7282</p>
--	--

応募資格・「雅樂だより」定期購読者  
応募方法・はがきに希望の演奏会、住所、氏名、  
電話番号などを必要事項を記入。  
応募先・〒188-0013  
東京都西東京市向台町6-12-6 鈴木方  
「雅樂だより」編集部

「明治初年の太伶人達が雅樂の稽古の心得について述べた本である。雅樂を稽古する人のためには非常に良い本だと思った」と『雅樂執業抄』の紹介文を伯爵大原重明文

学博士が、昭和の初期発行されていた『雅樂』に寄せていました。

○ 質付のお願い

ご協力頂ける方、質付をお願い致します。お振込は、購読料の口座へ、通信欄に「質付」と記入ください。

○ 質付・購読・継続 申し込み方法

○ 質付・購読料一年（4回発行）千五百円。（送料込）

○ 質付の方法

○ 質付の手順

○ 質付の注意事項